TEZZORCへ体験入部！

ティーポ145が完成する前に、グースネック宮城の協力により、編集部310は東北シリーズで独自開催されている145カップへ参戦した。今回はTEZZOレーサーズクラブの一員として、走行会とレースへ参加。太田さんによるレクチャーから同乗試乗など、やはりプロによる的確な指導は、改めて勉強になった。レクチャー&レースレポートは次号にて。

TEZZOレーサーズクラブのメンバーは、赤いレーシングスーツを着用。サーキットでも目立ちます。

[連載] Vol.34

TEAM KEEP ON RACING & TEZZO

159でのチャレンジがスタート！

3年間に渡ってアルファGTでレースへ参戦していた太田さん。先月お伝えした通り、今年は159もしくはブレラでレースへ参戦することとなった。そして、悩みに悩んだ結果、159の3.2をサーキットでの相棒に選んだのだが……。

文：隠岐麻里奈　撮影：伊藤嘉啓
取材協力：グースネック宮城/ブリヂストン/プロドライブジャパン/チェッカーモータース/エヌケイ企画
仙台ハイランド/フィアットグループ・オートモービルズ・ジャパン

今シーズン、チーム・キープ・オン・レーシングのアルファ・チャレンジ参戦車両は159に決まった。

その理由のひとつが、ブレラのルーフに標準装着となるスカイウインドーの存在だ。アルファチャレンジに特に規定はないが、例えばJAFのレース規定では、ガラスは外してアクリルや鉄板などで作り変えなければならない。カーボンも可能だが、今年のチーム方針は、サーキット専用マシンでレースをするのではなく、新規ユーザーが参入するための手本となるようなクルマでレースへ参戦することにある。ユーザーがそこまでの改造をするのは現実的ではないからだ。

もうひとつの理由として、この連載で159を扱い始めてから、オーナーから「連載を楽しみにしています」という声が多く届くようになった。「太田さんがいいところを見つけてくれて嬉しかった」という意見もあった。太田さんは、期待されると急にやる気を出すところがある。最終的には、太田さんの「じゃ、159でやろう」の一言で決まった。

GTのときも、太田さんが乗ることでユーザーが増え、サーキットで走る人たちも出てきた。159もそうなれば意義があるし、そうした筋道をブレラよりも作りやすいという考えも後押しした。

そして迎えた、今年のレース初戦となるアルファチャレンジ東北シリーズ第一戦。車両の決定からレースまでの時間が無かったので、今回は、これまでデモカーとしてこの連載でとりあげてきたチェッカーモータースとのコラボレートカーである159の2・2を持ち込んだ。

このクルマはあくまでも究極のストリートカーを狙ったもの。ローダウンサスとスタビリンクによって構成されたTEZZOレイアウトサス試作型装着で車高は30㎜ダウン。ポテンザRE-11十鍛造マグ・プロドライブホイールの組み合わせのみ。ステッカーを貼ったことで、ちょっとだけレーシングマシンに近づいた感じだ。サーキットでも「へえ、159って格好よかったんだね」と注目を集めた。

今回は、なぜ159の2・2でレースへ出場したのだろうか？

「159のポテンシャルを探る意味がある。」

そして、実際に走ってみた太田さんの第一声は、「159は、意外と走るよ！」という喜びのものだった。

「GTとの最大の違いは、車体の剛性が増したのでコーナーでブレない。試作レイアウトサスのスタビ強化効果もあって幅広のRE-11がしっかり接地する」

実際にコーナリングの姿勢はノーマルのスタビを試した時より車体の傾きが少なく、メカも「やるね」と言っている。走行後のタイヤのトレッドもきれいに均一に減っていた。

「普通はショルダーが減っちゃうけど、そうはならなかった」(太田さん)

これは159の強固なボディとサスがうまくバランスしている証拠だ。

太田さんによると「159は車重があるからGTの2ℓに比べると低速コーナーからの立ち上がりにもたつきがあるけど、その後はパワーがあるからスピードのノリがいい」のだという。

さらにタイヤサイズもGTは、過去にいろいろ試した結果225／40R18が精一杯だったが、159はさらにエアボリュームがある245／45R18が装着できた。サイズアップしたことで心配されたボディとの干渉もなかった。

だが、問題もある。159にはスポーツ系のパーツが現状ではほとんどないのである。大丈夫だろうか？

「もちろん新しいクルマでまだ誰も走らせていないから不安要素はいっぱいあるけど、素材がいいから、すべてを改造したり新たに作らなくても、ノーマルで足りない部分に手を加え、セッティングを変更していけばある程度までいける……かなぁ」

とにかく、今回159でレースへ出てみて、予想していたよりもポテンシャルが高いことがわかり、不安は少し解消された。いったいどんなチャレンジになるのだろうか。

今回は3.2のレースカーが間に合わなかったため、急遽2.2で参戦。というのも、159がどれだけポテンシャルがあるのかを探るため。練習走行時にはTEZZOレイアウトサスキットとノーマルの比較など、様々なデータを収集。